

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成22年3月4日(2010.3.4)

【公開番号】特開2007-71590(P2007-71590A)

【公開日】平成19年3月22日(2007.3.22)

【年通号数】公開・登録公報2007-011

【出願番号】特願2005-256655(P2005-256655)

【国際特許分類】

G 0 1 N 22/00 (2006.01)

G 0 1 N 21/35 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N 22/00 Z

G 0 1 N 21/35 Z

【手続補正書】

【提出日】平成22年1月16日(2010.1.16)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

導波路であって、

30GHz以上30THz以下の周波数帯域のうち少なくとも一部を含む電磁波を伝搬するための導体で形成される単一線と、

前記単一線を覆う第1の誘電体部材と、

前記第1の誘電体部材と間隙部を有して前記単一線を覆う第2の誘電体部材と、を備え

、  
前記第1の誘電体部材に覆われた前記単一線から前記第2の誘電体部材に覆われた前記単一線に伝搬する前記電磁波が、前記間隙部における前記単一線を伝搬する際に、該間隙部に配置される検体と相互作用可能に構成されることを特徴とする導波路。

【請求項2】

前記間隙部は、少なくとも前記単一線の一部であることを特徴とする請求項1に記載の導波路。

【請求項3】

前記間隙部は、前記単一線を伝搬する前記電磁波に対する屈折率が変化するように構成されることを特徴とする請求項1あるいは2に記載の導波路。

【請求項4】

前記間隙部が周期的あるいは自己相似的に配置された複数の間隙を有し、

前記複数の間隙どうしの間隔が前記電磁波の波長オーダーであることを特徴とする請求項1乃至3のいずれか1項に記載の導波路。

【請求項5】

前記電磁波を前記単一線に結合させる結合部、あるいは前記電磁波を発生させる発生部を備えることを特徴とする請求項1乃至4のいずれか1項に記載の導波路。

【請求項6】

検体の物性を検出するための装置であって、

請求項1乃至5のいずれか1項に記載の導波路と、

前記導波路を伝搬する電磁波を検出することにより、検体の物性を検出するための検出

部とを備えることを特徴とする装置。

【請求項 7】

前記検体の物性を検出するために、該検体によって伝搬状態が変化した電磁波を検出することを特徴とする請求項6に記載の装置。

【請求項 8】

前記検体の物性の情報を記憶している記憶部を備え、

前記伝搬状態が変化した電磁波に基づいた情報と前記記憶部に記憶されている情報とを比較することにより、前記検体を同定することを特徴とする請求項7に記載の装置。